

プロボクシングWBO世界スーパーフライ級

タイトルマッチ戦に学び

選挙の年、自公政権に終焉を！

新しい年が始まりました。コロナ禍により、「めでたさも中くらいなりおらが春」（一茶）という気分ではありません。皆様方は年末・年始をいかがお過ごしだったでしょうか。

私は 30 日に新宿区大久保公園に開設された「コロナ被害相談村」を小林議長とともに訪ねて激励、31 日は後述するボクシングのタイトルマッチをテレビで見て、2 日は今話題の劇場版「鬼滅の刃」無限列車編を鑑賞、3 日は今年初めての登山として箱根の金時山に挑戦しました。

正しかったレフリーの判断

多くの方がご欄になったと思いますが、大晦日に（私としては久しぶりに）ボクシングのタイトルマッチをテレビ観戦しました。プロボクシングWBO世界スーパーフライ級タイトルマッチで王者の井岡一翔（31）と同級 1 位の田中恒成（25）戦です。結果は井岡が、8 回 TKO 勝ちで 2 度目の防衛に成功しました。

全体として井岡のリードで展開していました。挑戦者の田中は、5 回と 6 回にダウンを喫し、もう一度ダウンすれば TKO 負けになる局面で第 8 ラウンドを迎えました。ラウンド中盤、井岡の左からのフックが立て続けに 2 回、田中の顔面にヒット。私は一瞬テレビに向かって「危ない！」と叫んでいました。その瞬間です。レフリーが二人の間に割って入って、試合を止めたのです。8 ラウンド 1 分 35 秒、井岡の TKO 勝ちの瞬間でした。

見ていた私はほっとしました。試合が止まらなければ、田中は KO でリングに横たわっていたでしょう。ギリギリでしたがレフリーが止めてくれたのです。そのあとの実況中継していたアナウンサーの説明に納得しました。レフリーは試合の前に「私の仕事は選手たちを健康のまま、家庭に送り出すことだ」と語っていたというのです。

この試合、私たちに一つのヒントを与えてくれたと思いました。結論を言えば、今の日本は自公政権に『レフリーストップ』をかける時期にきているのではないか、ということです。

このままでは日本がダメになる

おさらいをするまでもなく、アベ前政権は戦後日本の政治的慣習をことごとく壊し、憲法を憲法違反の法律で蹂躪してきました。「集団的自衛権」の容認から始まり、「秘密保護法」、「戦争法＝安保法制」、国民監視の「共謀罪法」を強硬採決によって成立させました。

国民の暮らしにかかわる問題でも「消費税 10% へ引き上げ」、奴隷化をきたしかねない「働き方改革」——など、目を覆いたくなる「惨劇」でした。新型コロナウイルス感染対策についても、いきなり学校を閉鎖し、つづく「アベノマスク」でひんしゅくを買いました。

さらに「モリ・カケ」「桜」にいたっては、政治の私物化も甚だしくいまだにウソをつきつづけてい

ます。黒川検事総長就任の画策については国民からの猛反撃に遭い、断念せざるを得ませんでした。結果、健康問題を理由に辞任せざるを得ませんでした。これは当然の帰結でした。

アベ政治を引き継ぐことを宣言した菅義偉内閣は、最初に「自助、共助、公助」をかかげ、政治の根本である「公助」を投げ捨てたと思えない対応に出てきました。続いて、日本学術会議の6人の任命を拒否し、いまだにその理由について説明していません。さらに「Go To トラベル」を推進しウイルスを拡散させ、事態を深刻化させました。国民からの批判にやっとその停止を決め、緊急事態宣言を発出する動きとなりました。

今年こそ自公政権の国民によるレフリーストップを

このコロナ対策がつづけば、日本国民はいのちがいくつあっても足りません。このまま憲法を法律で変質させる手法がまかり通れば、いつか来た道・戦争に駆り出されかねません。堪忍袋の緒を切るときです。

今年、解散がなくとも総選挙が行われます。レフリーストップをかける絶好のチャンスです。立憲野党と市民の共闘で自公政権に鉄槌を下そうではありませんか。

* * * *

「コロナ被害相談村」は12月29日、30日、1月2日の3日間開設されました。報道によれば3日間に337件の相談が寄せられたといえます。コロナを理由に職をなくした人たちの不安はいかばかりでしょうか。「自助で解決しろ」という菅首相の発言には憤りを感じます。

年末にこの取り組みへのご協力をお願いしたところ、「カンパを送りたい。振込口座が知りたい」という連絡を複数の方からいただきました。少し遅くなりましたが、まだ間に合います。以下の口座を活用いただけるよう、改めてお願いするものです。口座は今回の取り組みの責任者でもある、弁護士の高橋一郎さんの名前で開設しました。よろしく願いいたします。

(振込口座) 三井住友銀行本店営業部 (普通) 8876473

(名称) ベンゴシナツメイチロウアズカリグチ

となっています。重ねてご協力をお願いいたします。

* * * *

映画「鬼滅の刃」と「金時山」の話は、機会があれば別のときに。史上最高の興行収入を得たという「鬼滅の刃」は死なない鬼とのたたかいがコロナウイルスとオーバーラップしたこと、家族と友情の大切さ、いのちの大切さを教えてくれていました。終了後に前を歩く親子連れの女の子が「ママ、泣いてたでしょう」と問いかけていたのが印象的でした。

金時山は山頂からの富士山の眺望は、アタマだけしか見せてくれず涙をのみました。が、意外なほど子ども連れをみかけました。長年山歩きをしていて、こんなに子どもの多い山は初めてでした。それもオムツが取れたばかりと思われるような子どもたちも。金太郎のように元気な子に育ててほしい、という親の願いの現れなのかもしれません。

(事務局長・水久保文明)

*千代田区労協通信バックナンバー/http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。